

# BOOK GUIDE

## 今月のブックガイド

### 宝物箱みたいな本、本みたいな○○

「うわあっ!」と思わず歓声を上げてしまったステキな本。イエロー、ピンク、水色のカラフルな3冊が収められた可愛いボックス…そして、それぞれの表紙を飾っているのは、絵本作家である荒井良二さんの鮮やかな色彩! スウェーデン政府が創設した児童少年文学賞であるアストリッド・リンドグレーン記念文学賞の日本人初受賞者としても知られている荒井さんの作品は、優しい色たちの強烈な個性が感じられるものばかり。カラフルな調和と個性は、まさに本書が示す〈いろいろな生きかた〉の世界観そのもので、本を開くまえからワクワク感が高まっていく。このまま部屋に飾っておいてもいいくらい! …なのではあるが、もちろん中身も素晴らしい。

①『いろいろな性ってなんだろう?』、②『だれもが楽しくすごせる学校』、③『ありのままでいられる社会』の3巻を通して、マンガやイラストがふんだんに用いられ、多様な性のありようがわかりやすく説明されている。なかでも本書を特徴づけるのが、総勢35名にもおよぶ人々へのインタビュー記事である。さまざまな登場人物の声を聴くことで、〈みんながう〉というあたりまえの現実を認識させられる。本書の対象は「小学校中学年以上」なので、子どもにとっては、登場人物たちの写真を見て〈いろんな人がいる〉と実感できるのは、なにより確かな学びになるだろう。私にとっては、性教育や性の健康に関する分野で一緒に取り組んできた仲間たちも登場しており、知らなかった一面に触れてホロリときたり、勇気づけられたり。子どもに限らず、大人が読んでも十分読み応えのある内容だ。

本書は、性の多様性やセクシュアルマイノリティについて理解する本ではない。いろいろな人生を知ること、自分はどう思うのか、自分はなにをしたいのか、



①『いろいろな性ってなんだろう?』

### いろいろな性、 いろいろな生きかた

(全3巻)

監修：渡辺大輔

ポプラ社

定価 3000円+税(1巻あたり)

自分自身のことを知るための本である。自分の生きかたを考えるためのカラフルなガイドブックのようであり、登場人物はその道筋を〈それぞれの体験〉から照らしてくれる。これまでの社会で〈ないもの〉とされてきた存在や生きかたを、自らの人生を語ることによって〈ここにもある〉と伝えてくれるのだ。個人のありようはもちろん、親子、家族、パートナーといったさまざまな関係性や多様な職業から照らしだされる体験談は、さながら「人生のハローワーク」ともいえる。

監修者の渡辺大輔氏は、3巻のあとがきで、国連の「子どもの権利条約」を紹介しながらこう述べる。「だから、みんなの自由や平等が守られていないと思ったら、意見をいって、話しあいをして、きまりを変えたり、つくったり、なくしたりしていくことができるんだ」と。この社会をつくっているのは私たちである。みんながしあわせだと思える社会を私たち自身がつくっていくこと。性の多様性を知ること、今ある社会を見直し、変えていくことができる。それはだれかへの配慮や支援ではなく、だれもが生きやすい社会をつくるためのみんなの努力なのだ。だれもが傍観者ではいられない。

ステキな装丁に、カラフルなコラムやインタビューが詰まった本書は、まるで宝物箱のような本である。本を手にした子どもは興味や好奇心をそそられて、びっくり箱のように楽しめるだろう。今、自分の性に悩んでいる子どもにとっては、薬箱として助けられるはずだ。私の同僚のように「伝統あるポプラ社からこうした本が出版されるとは」と驚いた年長者にとっては、時代の温度を知る百葉箱になるかもしれない。この本がどんな○○になるか、それも読み手にとって〈いろいろ〉だ。どの巻にも、「にじいろ図書館」という詳しいブックガイドや支援団体一覧が載っているのも便利。全国の学校の図書館や保健室に、ぜひこのステキな本を置いてほしい。(大阪大学大学院准教授 野坂祐子)